

第 12 回伊那市誌編さん委員会議事録

開催日時	令和 5 年 5 月 17 日（水）13 時 30 分～15 時 10 分
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出席者	編さん委員：16名（欠席：4名） 事務局：教育長、教育次長、市誌編さん室長、担当
会議目的	各編の重複編さん項目、コラムについての意見交換

【会議事項】

- 1 各編の重複編さん項目について
- 2 各編のコラムについて

【会議内容】（討議、意見交換による検討事項、決定事項）

- 1 各編の重複編さん項目について

<検討課題>

- ・概説編と各編の項目が重複しても特に問題はなく、必要に応じて重複が出てくるのは当然のことである。（副委員長）
- ・長野県や伊那市でも防災冊子が発行され、災害・防災は重点的に扱いたい。また、自然災害への対応だけでなく、河川環境等を守る市民の主体的な取り組みも現代的な課題としてふさわしい。（副委員長）
- ・「祭り・芸能・音楽」、「多様な食文化」など、伝統芸能や習俗に関わるものを、文化や民俗編、産業経済編と概説編でどうすり合わせていくか。（副委員長）
- ・「高遠石工」「伊澤修二」「井上井月」など、多くの編で扱われている項目をどう整理したらよいか。その他、人物やコラムの扱いも課題になる。（副委員長）
- ・市誌として県立等の学校や教育施設をどう扱うか。（副委員長）
- ・文化編と概説編Ⅱの重なりについては、文化編が幅広く網羅されているので、重複は当然のことである。ただし、教育編の生涯学習と文化編の重複はしっかりすり合わせをした方がよい。重複は駄目ということではなく、重なりの中身をみて吟味していけばよい。いろいろなカテゴリーがある中で、この 50 年の変化をどう描いていくのか、領域をまたいで議論していくことで、より豊かな叙述ができるのではないかと。（委員）
- ・概説編と自然編の重なりについて、自然編では自然の切り口で詳しく記述することになるので、特に問題はない。ただし、執筆を同じ方に依頼するのは避けた方がよい。（委員）
- ・項目の重複はやむを得ない。どちらが主に扱うか、部会間で情報交換していけばよい。（委員）
- ・一つの事象について違った方向から記述するということになるか。（委員長）
- ・各編では見方がそれぞれ異なるので、重なりがあってもよい。ただし、記述内容の間違いや食い違いは絶対に避けなければならない。（委員）

- ・概説編が先行しているので、ゲラになったところで各部会へ渡してもらい、間違い等があれば互いに指摘すればよい。(委員)

<決定事項>

- ・概説編と各編の項目に重なりが出てくるのは当然のことである。各編間の重複についても、見方や切り口、ボリューム等が異なれば特段問題はないが、記述内容の間違いや食い違いは避けなければならない。(委員長、副委員長、委員)

2 各編のコラムについて

<検討課題>

- ・コラムを幅広く捉え、エピソード等を載せる部会がある一方、ほぼ人物に限定した部会もある。コラムの内容は、各編に任せてよいのか、全体で統一した方がよいのか。個人的には、エピソードや注目される事柄など何でもよく、各部会に任せてもよいのではないか。(委員長)
- ・本文を補足するようなものはコラムにはならない。コラムにはエピソードや少しワサビのきいたことなどを載せていけばよい。政治行政編のコラム「地方三新法」のようなものはコラムではなく、解説とするべきではないか。(副委員長)
- ・1/4頁くらいのもは「コラム」ではなく、「ちょっと一言」などとしてもよいか。出された意見をまとめると、コラムは1/4頁から最大2頁ということになる。(委員長)

<決定事項>

- ・コラムとする内容は、本文を補足するようなものではなく、エピソードや注目される事柄などとする。コラムのスペースは、1/4頁から最大2頁までとする。(委員長、副委員長)

【報告事項】

1 年表の作成検討状況について

- ・今回の編さん事業の柱は合併前後から現在までなので、年表は古代から記していくが、主な出来事はこの50年前後を詳しく載せていきたい。また、今回の年表は、本編の該当項目のほか、当時の新聞記事やケーブルTV等のメディアとQRコードでリンクできればと考えている。今後、統括会で検討して2～3名の委員を選任し、編さん委員会の承認を得る形をとりたい。(委員長)
- ・編さんの骨子については、一つ一つ詰めていかないと前に進んでいかない。年表の発刊は令和11年度ということなので、概説編Ⅱ巻末の年表は、年表編に譲るということになるか。(副委員長)
- ・この50年の年表を作る場合、特別なスタイルをとらない限り、ある年の1～12月までで4～6頁ということになってしまう。伊那市誌編さん事業における年表がどのようなものなのかを具体的に考えていく必要がある。(委員)

2 広報の状況について

- ・広報については、現在二通りの方法で進めている。一つはHPであり、4月以降随時更新している。もう一つは市報で、4か月に1回のペースで紙面の半分をもらって「編さん室だより」を載せている。その他に、広報誌を回覧文書等に出した方がよいという意見もあり、どんな形のものが市民の

目に留まるのか、検討していきたい。(事務局)

- ・伊那市が地名調査を行った時と同じように、年1、2回は市誌編さんに関わる公開講座のようなものを行っていく必要があるか。多面的な方法で広報を行っていくことを考えていきたい。歴史博物館、創造館、図書館等もいろいろな取り組みを行っているが、相乗効果を生み出せるように工夫していきたい。また、県・市ともに資料の保存が課題となる中で、伊那市誌編さん事業の取り組みが試されているのではないか。(副委員長)
- ・講演会は実施した方がよい。委員の負担という声もあるが、それぞれ研究の蓄積があるので、年4回くらいは可能ではないか。地域に発信していくシステムを作してほしい。(委員)
- ・せっかく編さん事業を行っているのだから、市民に注目してもらい、1冊でも多く購入してもらえらるような体制づくりをしていく必要がある。(委員長)

3 その他

- ・項目立てやコラム、全体のスケジュールなどいろいろな課題があるが、ここまでくると、印刷業者にできるだけ早く組見本を作ってもらいたい。(副委員長)
- ・民俗編の項目立てや総頁数等が明確になっておらず、心配である。(副委員長)

【その他】

1 次回 第13回編さん委員会の日程について

令和5年7月19日(水) 13時30分 市役所多目的ホール